

113期 株主通信

# TDK TODAY

VOL.43 2009/SUMMER



## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申しあげます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。 ここに、2009年3月31日に終了しました2009年3月期の連結業績についてご報告いたします。

当期はTDKグループに影響を与えるエレクトロニクス市場において、次のような際立った動向がありました。

- ・高い機能を有する電子機器 (映像関連機器、PC、携帯電話等) の需要低迷傾向が見られ、第3四半期からは世界的な同時不況を背景に電子機器全般の需要が大きく減少しました。
- ・自動車市場が石油価格高騰、世界同時不況の影響を受け大きく落ち込み、それにより自動車向けエレクトロニクス市場が 不調でした。
- ・これらの結果、電子部品の需要は大きく減退し、下期には生産調整を余儀なくされました。
- ・需給環境の悪化により売価下落が進行したことと、米ドルに対して円が高騰したことも業績に影響を与えました。

このような事業環境のなか、当社グループは構造改革を断行し、事業体質の改善を図るとともに、積極的な生産調整による在庫 の適正化を図りました。これらの結果、連結業績は下表のとおりとなりました。

また、2008年10月17日に、EPCOS AG(本社:ドイツ、社長兼CEO:Gerhard Pegam)とその子会社を連結子会社とし、当期下期からEPCOSグループの業績を含めております。

						(単位:百万円、%)
期	<b>前 期</b> (2007.4.1~2008.3.31)		<b>当期</b> (2008.4.1~2009.3.31)		増減	
科目	金 額	売上高比	金 額	売上高比	金 額	増減率
売 上 高	866,285	100.0	727,400	100.0	△138,885	△16.0
営業利益(△損失)	87,175	10.1	△54,305	△7.5	△141,480	_
税引前当期純利益(△損失)	91,505	10.6	△81,630	△11.2	△173,135	_
当期純利益(△損失)	71,461	8.2	△63,160	△8.7	△134,621	
1株当たり当期純利益(△損失)金額						
一基本	551円72銭		△489円71銭			
一 希 薄 化 後	551円19銭		△489F	円71銭		

CONTENTS € < U TDK TODAY vol.43

株主の皆様へ	
連結データハイライト	2
製品別業績概要	
トップメッセージ	5
EPCOS社とはどんな会社?	

だから、やっぱりTDK	
TOPICS	
名句の旅&TDK	
株式の状況 他	14

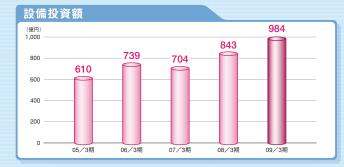
## 連結データハイライト

















## 製品別業績概要

当社の売上高は(1)電子材料 (2)電子デバイス (3)記録デバイス (4)その他の4つの製品区分で構成されます。なお第3四半期から連結子会社となった EPCOSグループの売上高は、製品セグメントの定義が当社の定義と必ずしも一致していないため、「その他」に含めております。また、2007年8月にTDKブランド記録メディア販売事業を譲渡したことにより、重要性の判断から記録メディア製品の売上高については「その他」に含めております。

## 電子材料

Electronic materials

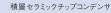
電子材料は「コンデンサ」、「フェライトコア及びマグネット」の2つで構成されます。当製品区分の売上高は、1,451億11百万円(前期2,001億1百万円、前期比27.5%減)となりました。

「コンデンサ」:売上高は前期と比較して減少しました。主要品目である積層セラミックチップコンデンサは、主要製品(PC、AV/ゲーム、

携帯電話、カーエレクトロニクス)向けで販売が減少しました。需要減退、価格下落及び米ドルに対する円高の影響を受けたことが減収の要因です。

「フェライトコア及びマグネット」:売上高は前期と比較して減少 しました。フェライトコアとマグネットがいずれも各々の主要製品 向けで減収となりました。







記録デバイスは「HDD用ヘッド」、「その他」の2つで構成されます。当製品区分の売上高は、2,472億33百万円(前期3,347億34百万円、前期比26.1%減)となりました。

「HDD用ヘッド」:売上高は前期と比較して減少しました。当期は前期比で HDD用ヘッドの需要が減退しました。この結果、当社のHDD用ヘッド販売 数量は前期比で減少、さらに価格下落及び米ドルに対する円高の影響も あり、売上高は減少しました。

「その他」:売上高は前期と比較して増加しました。 2007年11月に子会社化したHDD用サスペンション 事業の売上高が、当期から本格的に寄与したことが 主な要因です。





## 電子 デバイス Electronic

devices

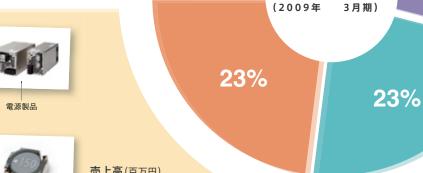
電子デバイスは「インダクティブ・デバイス」「高周波部品」及び「その他」の3つで構成されます。当製品区分の売上高は、1,661億64百万円(前期2,090億89百万円、前年同期比20.5%滅)となりました。

「インダクティブ・デバイス」:売上高は前期と比較して減少しました。特に、コイル製品は薄型テレビ、ゲーム、携帯電話、カーエレクトロニクス向け、FMC製品は携帯電話、カーエレクトロニクス向け、トランスは雷

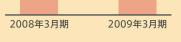
ロニクス向け、EMC製品は携帯電話、カーエレクトロニクス向け、トランスは電源製品向けの販売が各々減少したことが主な要因です。

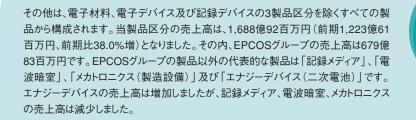
「高周波部品」:売上高は前期と比較して減少しました。特に、PC向けの販売が減少したことが主な要因です。

「その他」:売上高は前期と比較して減少しました。センサ・アクチュエータが減収、電源が一部製品の終息と半導体を含む製造設備市場向けで各々販売が減少したことが主な要因です。













— HDD用ヘッド



3

34%

## トップメッセージ



代表取締役会長 澤部 肇

代表取締役社長 上釜 健宏

株主の皆様には平素より格別のお引き立てを賜り、心から御礼申しあげます。

当期において当社を取り巻く事業環境は大きく変化し、電子部品需要は急激に縮小いたしました。これを受けて当社では 積極的に構造改革を推進。その具体策は、①不採算製品の終息/改善、②拠点整理、③人材最適配備、④販売費及び 一般管理費の削減の4点です。今後も素材技術とプロセス技術にこだわり、仕事の仕組みを根本から見直すことにより収益 構造を再構築し、企業価値拡大に取り組んでまいります。

## EPCOS社とのシナジー効果で更なる成長を

私たちは、創業時から培ってきたフェライト技術を中心とした受動部品事業を基盤とし、HDD用ヘッド、電源そして二次電池といった事業を展開することで会社の成長を目指しています。このたびEPCOSグループを買収しましたが、この目的は単に受動部品事業の規模拡大ではなく、当社の収益構造の基盤となる受動部品事業を強化することにあります。そして、電子部品業界におけるグローバルリーディング企業を目指してまいります。この早期実現のため新会社を設立し、その新会社の

もとで当社グループの受動部品事業(コンデンサ、マグネティクス、高周波部品、センサ)とEPCOSグループとの統合を行い、成長へのシナジー効果を早期に具現化してまいります。この統合は、お互いの強みを増強し、弱みを補完することができると考えています。EPCOSグループはコンデンサ(セラミック、アルミ電解、フィルム)、インダクティブデバイス、センサ、高周波部品等を開発・製造・販売する電子部品会社であり、カスタム部品(顧客仕様に基づく部品)を得意とし、特に、自動車分野、通信分野に競争力ある製品を持っています。一方、当社グループはデジタル家電分野(薄型テレビ、ゲーム機器、携帯オーディオプレーヤー、PC、携帯電話等)、自動車分野向けの電子部品に競争力があり、汎用部品を得意とするところが、EPCOSグループとの違いであります。また、EPCOSグループは、欧州に強く、当社グループは日本・アジアを得意としております。このように、EPCOSグループと当社グループとは、技術・製品・顧客・地域においてお互い補完できる関係にあり、EPCOSグループを当社グループに取り込むことにより、一層強固な受動部品事業の基盤を作ることができます。

## 環境関連商品ビジネスへの注力

次に環境関連商品への注力についてですが、セット製品(最終財)の省エネルギーなどに貢献できる環境関連の製品は今後も高い伸びが期待できますので、特長ある製品を創出してまいります。ハイブリッドカー向けの小型・軽量で高効率の「DC-DCコンバータ」はその一例です。DC-DCコンバータは、ハイブリッドカーでは必要不可欠な直流電圧変換装置であり、当社は重量を従来の半分近くに減らした業界最軽量クラスの製品を開発しました。このDC-DCコンバータは、電気自動車や燃料電池車といった次世代の車にも欠かせない装置として、今後の市場拡大が大いに期待できるものと考えています。

## 電子部品業界でのグローバルリーディング企業をめざして

以上のような取り組みをグループー丸となって推し進めていくことで、当社は「電子部品業界でのグローバルリーディング企業」を目指してまいります。そのために電子部品事業で安定基盤を築いた上で、独自性のある新事業を創出し、業界平均を上回る成長を目指してまいります。一方で、社会の一員であるとの自覚を常にもち健全な企業風土の醸成に努めます。当社は今、大きな変革の時代を迎えていますが、モノづくりのプロフェッショナルとして「創造によって文化、産業に貢献する」という創業の精神に基づき、事業力の強化に向けた取り組みを大胆かつタイムリーに実施してまいります。今後の取り組みに、どうぞご期待ください。

# EPCOS社とは どんな会社?

今号では、トップメッセージにもありますとおり、今後TDKが電子部品業界に おけるグローバルリーディング企業としての更なる成長を目指す上で、重要な 鍵を握るEPCOS社についてご紹介いたします。2009年3月期末におきまして、 TDKは同社の約96%の株式を所有しています。

## 概要

EPCOS社は、様々な電子・電気機器に組み込まれる電子部品、モジュール及びシステムにおける世界有数のメーカーで、その製品はテレビ、DVDレコーダ、 コンピュータなどの民生機器から、自動車、携帯電話、工場自動化システム、風力や太陽光発電などの幅広い分野で使用されています。

- ●企業の生い立ち:EPCOS社は、ドイツのシーメンス社の部品部門を起源とし、その後、パナソニックグループの子会社である旧松下電子部品株式会社とシーメンス 社との合弁会社として設立されました。
- ●本社:ドイツ ミュンヘン市
- ●計員数:21.195名(2008年9月30日現在)
- ●2008年9月期(2007.10.1~2008.9.30)の財産及び損益の状況
- ·売上高:1,478百万ユーロ(2,216億57百万円)
- ·純利益:64百万ユーロ(96億50百万円)/純利益率4.4%
- ·総資産:1,395百万ユーロ(2,093億円)
- ・株主資本: 675百万ユーロ (1,013億円)/株主資本比率48.4%
- ●製品群:高周波部品、セラミック部品、コンデンサ、インダクタなど
- ●開発・製造拠点:ヨーロッパ、北南米、アジア太平洋地区に20拠点以上

(注)円換算レートは2008年9月30日現在。(1ユーロ=¥150)





ミュンヘンの本社



## 市場別売上構成(2008年9月期)

EPCOS社の強い主な市場分野は車載機器、情報・通信機器及び産業機器で、それぞれの市場分野向けに幅広い部品やモジュールを供給しています。 また、市場別に特筆すべき製品としては次のようなものが挙げられます。

#### <車載機器向け製品>

低燃費と排気ガスの削減に貢献するディーゼル/ガソリン車エンジンの燃料噴射システム用のピエゾ\* インジェクタシステムと温度センサ、圧力センサなどがあります。

#### <情報・诵信機器向け製品>

携帯電話向けの各種部品単品とモジュールで売上の70%を占めますが、特にSAW(表面弾性波)フィルタ\* に強みを持っています。

#### <産業機器向け製品>

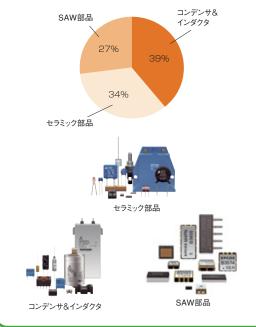
電気の蓄電や整流関連ではアルミ電解コンデンサ、省エネシステム用にコンデンサ、インダクタなどが あります。また、風力や太陽光発電施設に使われる電源用コンデンサなどがあります。

\*ピエゾ(圧電)素子:電圧の制御によって伸縮変化させることが可能な素子。

\*SAWフィルタ:携帯電話などに使われ、必要な信号だけ取り出してクリアな通話を出来るようにする部品。



## 製品分野別売上構成(2008年9月期)



#### ■コンデンサ&インダクタ

アルミ電解コンデンサはモータなどの産業機器向け駆 システムや民生機器に使われています。フィルコンデンサは 風力発電や一般電力供給網向けに使われています。また インダクタは、産業機器向け、車載向け、照明システムに採用 されています。



#### ■セラミック部品

ピエゾアクチュエータが自動車の燃料噴射システムに使われて います。積層製品としては、積層セラミックコンデンサがあり、 積層バリスタは携帯電話やノートPCに搭載されています。また、 温度センサや圧力センサ、サーミスタ、バリスタ、アレスタなど が車載用や産業機器向けに使われています。

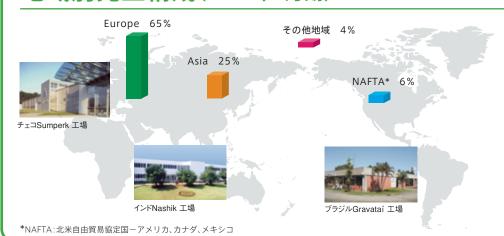


#### ■SAW部品

SAWフィルタは薄型TVなどのマルチメディア機器用や携 電話に使われており、また、積層セラミックの高周波モジュー ルが携帯電話の高級機種に採用されています。また、携帯電話 向けとして静電気対策と電磁ノイズ対策用のモジュールが あります。



## 地域別売上構成(2008年9月期)



EPCOS社の売上はヨーロッパ 全体の比率が65%を占めている ことから、ヨーロッパで極めて 強固な地盤を築いています。そ の理由のひとつとしては同社が 得意としている通信機器市場の 大手メーカーがヨーロッパ企業 であることが挙げられます。イ ンドを含めたアジア地域に11の R&Dと生産拠点を有しており、 また中国はもちろんのこと、ブ ラジルやチェコにも生産拠点を 有しています。

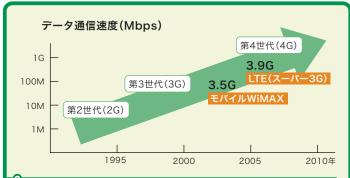
EPCOS社についての詳しい情報は http://www.epcos.com/ でご覧になれます。(英文)



## エコフレンドリーな未来に向けて…TDKの電子部品

## ユビキタス端末へと進化を遂げた携帯電話

「いつでも、どこでも、だれとでも」、当たり前のようにネットワークへのアクセスを可能にするのがユビキタス社会。もともと コンピュータのネットワークを想定した言葉でしたが、インターネットともつながって通話よりもデータ通信が主体と なった携帯電話が、ユビキタス端末の地位を獲得しつつあります。驚異的な小型・軽量化と高機能化を続ける携帯電話。 エコフレンドリーな未来に向けて、これからどんな進化を遂げていくのでしょうか。



## く ちょっと気になるKEYWORD

# 第4世代携帯電話(4G)

アナログ方式の第1世代(1G)、デジタル方式への移行期の第2 世代(2G)、TV電話やGPSナビなども搭載されるようになった第3 世代(3G)を経て、現在の日本では第3.5世代(3.5G)の携帯電話が 主流。これから第4世代(4G)の時代を迎えると、ユビキタス社会 はいよいよ本格化します。

### く ちょっと気になるKEYWORD

## モバイルWiMAX/LTE

第4世代携帯電話への橋渡しとなる第3.9世代(3.9G)の通信規格 が、モバイルWiMAXやLTE(ロング・ターム・エボリューション) です。ADSLなみの高速データ通信を自動車などで移動しながら も実現するのがモバイルWiMAX。より高速な次世代モバイル WIMAXやLTEでは光ファイバーなみの高速通信を実現。音楽 CD1枚分の大容量データが、わずか1分弱で携帯電話にダウン ロードできるようになります。

## 携帯電話の小型・薄型化を推進した ファイン積層テクノロジー



チップコンデンサアレイ

携帯電話には200~300個ものコンデンサが使われ ています。素材技術・プロセス技術を駆使したTDKの コンデンサの驚異的な小型化を成し遂げ、携帯電話の 小型・軽量化に大きく貢献してきました。

## DC-DCコンバータは 携帯雷話の中の小型変雷所



ICの駆動、液晶バックライトの点灯など、回路ごとに 必要な電圧をバッテリ電圧から変換するのがDC-DC コンバータの役割。SMDインダクタは、そのキーパーツ の1つで、小型化を図るために先進のフェライト技術、 成型技術、磁気シミュレーション技術などが投入 されています。

## バッテリの過熱を見守って保護

携帯電話の高機能化に伴い、 消費電力は増大する一方です。 ポリマーPTCサーミスタは、 バッテリパックの温度上昇を 検知して充放電をストップさ せる保護素子です。



## 第4世代携帯電話に向けた 基地局用のキーパーツ

サーキュレータとは、常に一定方向にのみ 信号(電力)を出力する素子。素材技術と高度 な設計技術を駆使、WiMAXやLTEの基地局 用に開発した小型・高性能サーキュレータ です。



## 次世代携帯電話を支えるのも、 TDKの電子部品です。

## **積層技術・薄膜技術を駆使した** 高周波部品

バンドパスフィルタは必要な信号の取り出しや 周波数制御などに使われる高周波部品。先進の **着層技術や薄膜技術などにより、小型・薄型化を** 達成しました。



## おサイフケータイと磁性材料技術

便利な電子マネーとして、コンビニなどの買物に 使われるおサイフケータイ。フレキシールドは 情報の送受信を確実にするための磁気シート。 ノイズ対策用にも使われています。



今の技術がよくわかるテクノマガジン『テクマグ』も併せてご覧ください。http://www.tdk.co.jp/techmag/

# **TOPICS**

## 「TECHNO-FRONTIER 2009」に出展

TDKは4月に幕張メッセで開催された「TECHNO-FRONTIER 2009」に出展しました。「電源システム展/EMCノイズ対策技術展」のブースでは、電源とEMC対策についてのステージプレゼンテーションを行うとともに、新たに開発した製品と技術を中心に紹介しました。電源では、デジタル回路技術を採用した新製品が、また、EMCでは、積層セラミックチップコンデンサやノイズ抑制シートなどの新製品が注目を集めていました。また、「モータ技術展」では、モータの小型・軽量化に貢献する高性能フェライトマグネットや、磁気特性を大幅に向上させた高特性ネオジム磁石を展示。ネオジム磁石用に新開発した高接着強度・高耐食性表面処理についての紹介も行いました。じっくりと時間をかけてパネル等に見入るお客様が多く、次につながる深いコミュニケーションが持てたということで、大変意義深いイベントとなりました。



## ニューヨーク証券取引所における上場を廃止

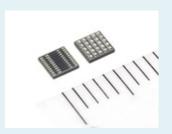
TDKは4月27日付けで、ニューヨーク証券取引所における米国預託証券(以下「当社ADR」)の上場を自主的に廃止しました。TDKでは、「資金調達」、「企業信用力及びブランド力の向上」、「投資家層の拡大」などのため、1982年6月にニューヨーク証券取引所に当社ADRを上場し、米国向け事業等の拡大を図ってきました。しかし、上場当初に掲げた目標は現時点でほぼ達成できていること、米国での当社ADRの取引高は僅少であり同証券取引所で上場を継続する経済的合理性が希薄となったことにより、上場廃止を決定いたしました。なお、今後も米国会計基準に基づく連結財務諸表を作成します。

## HDD用ヘッド事業に関する業務提携を解消

TDKは富士通株式会社との間で締結したHDD用ヘッド事業に関する業務提携の解消を決議し、両社で運営している合弁事業会社TDK FUJITSU Philippines Corporation (本社:フィリピン、当社出資66%、富士通出資34%、以下TFPC)の合弁解消を富士通と合意しました。当社と富士通は、2004年にHDD用ヘッド事業に関する業務提携契約を締結し、2004年12月にフィリピンにHDD用ヘッド加工組立製造会社として合弁会社TFPCを設立しましたが、今般、富士通がHDD用ヘッド事業及びHDD事業の終息を決定したため、当該契約の解消と合弁解消についての合意に至りました。今後TFPCはTDKの100%保有子会社となります。

## EMIフィルタ機能がついたBGA\* チップバリスタを開発

携帯型の電子機器に搭載される電子部品の小型化・高集積化が進み、電力消費を抑えて機器の稼動時間を確保・延長するため、IC駆動電圧の低電圧化も加速しています。それにつれ機器の誤動作や素子のダメージを防ぐため、より適切な静電気対策(ESD対策)が求められるようになりました。TDKでは、このような市場ニーズに対応するため、機器から発生する電磁妨害(EMI)を抑制するフィルタ機能をもつBGAチップバリスタ「AVF26BA12A400R201(2.6×2.6×0.65mm)」を開発。10月から量産を開始します。本製品では、外部端子形状をBGAタイプとし、また、30素子を1チップに入れ込み、10ラインの静電気対策を可能としました。また、当社従来品との比較で実装面積を約33%減らす新製品です。



\*BGA:Ball Grid Arrayの略。はんだによるボール電極を並べたもの。周辺にリード線が張り出さないため、実装面積の低減につながります。

## 積層ギガスパイラビーズ3種を開発、量産

近年、携帯電話などのモバイル機器は、通常の通話機能に加え、地上デジタル放送やFM放送、また、GPS機能の搭載など多機能化が進んでいます。そこで必要とされているのが、高密度な実装が施された回路上で効率良く電磁ノイズを除去し、それぞれの信号を整えていくことです。TDKではこのような市場ニーズに対応し、1チップで広い周波数帯域をカバーし、効率良く電磁ノイズ除去ができる、業界最高\*のインピーダンスを確保したGHz帯域チップビーズの新製品を3種類開発。6月から量産を開始しました。今回の開発、量産により、当社のギガスパイラビーズ(MMZ1005-Eシリーズ)は合計で2材質8種類のラインナップが揃い、ユーザーの多様なニーズに対応することが可能となりました。 \*2009年4月現在、TDK調べ



## 2009年版アニュアルレビューとインベスターズガイド発行のお知らせ

TDKは、アニュアルレビュー2009とインベスターズガイド2009を発行いたします。ご希望の方には完成次第郵送いたしますので、ハガキに郵便番号、ご住所、お名前を明記の上、下記申し込み先までお送りください。

【申し込み先】 〒103-8272 東京都中央区日本橋1-13-1 TDK株式会社 広報部IRグループ

ハガキにて頂くお名前、ご住所などの個人情報は、今回の資料発送にのみ使用し、発送後は速やかにハガキを適切に廃棄致します。なお、資料発送業務は当社と契約を結んだ第三者へ委託していますが、これ以外の第三者が個人情報に不当に接することの無い様、合理的な範囲内で管理致します。この募集は当社のIR活動の一環であり、いかなる有価証券に関する投資勧誘をも目的としたものではありません。本件に関する問い合わせ先は、広報部IRグループ(電話03-5201-7102)です。

11

数百万人にのぼるという俳句人口。海外にも愛好者が多く、"HAIKU"は国際語になっています。おりしも今年は 芭蕉の「奥の細道 | への旅から320年目。名句を生んだ各地の風物を訪ねながらTDKの工場をご紹介いたします。

## 象潟や雨に西施がねぶの花 松尾芭蕉





「八十八潟九十九島」と称された往時の象潟の景勝をしのばせる現在の風景。遠景は出羽富士とも呼ばれる鳥海山。

江戸深川・芭蕉庵の跡地

芭蕉が隅田川のほとりの草庵(深川芭蕉庵)から、みちのくへ旅立ったのは元禄2年3月27日(西暦1689年5月16日)。 日光、那須、白河、松島、平泉を経て日本海側へと歩を転じ、「閑(しずか)さや岩にしみ入る蝉の声 「五月雨をあつめて早 し最上川」などの名句を詠みながら鶴岡・酒田(山形県)に到着してしばし逗留。芭蕉はここから歌枕として名高い象潟 (秋田県にかほ市)へ足を伸ばしました。

古来、「八十八潟九十九島」ともたたえられた象潟は、松島に並ぶ景勝地。ここで芭蕉が詠んだのが「象潟や雨に西施が ねぶの花」という句です。西施とは紀元前5世紀、春秋時代中国の絶世の美女。"ねぶ"とは夏にピンクの可憐な花をつけ るネムノキのこと。念願の象潟にたどりついた芭蕉が、乱世に翻弄された西施の運命に思いをはせながら、眼前の美し い景色に詠んだもの。意味するところは難解ですが、さまざまな連想とイメージがふくらむ夢幻的な句です。ちなみに 芭蕉のみちのく紀行から一世紀あまり後の文化元年(1804年)、この地を襲った大地震により、象潟の海底は降起して 景観は一変してしまいました。国道7号線沿い、松の茂る多数の小さな丘が、緑なす水田のあちこちに点在する特異な 景観に、往時の象潟がしのばれます。



## 工場探訪 TDK象潟工場

#### 出羽富士とも呼ばれる名峰·鳥海山のふもと インダクタや機械装置の生産拠点

秋田県から山形県にかけての日本海側には、TDK及びグループ会社そして多数の協力会社の工場 がベルト状に連なり、電子部品の一大生産センターとなっています。名峰・鳥海山のふもと、JR羽越 本線·象潟駅から徒歩9分のところにあるのがTDK象潟工場(秋田県にかほ市象潟町)。ここでは インダクタなどの電子部品ほか、最先端のFAをになう各種機械装置の生産をおこなっています。

芭蕉も訪れた歴史的景勝地や自然環境を未来に残すため、TDK象潟工場では環境負荷物質の軽減、 電力消費量の削減といった環境保全活動を積極的に推進。また、地域貢献のための清掃活動や鳥海 山でのブナ植林活動などにも取り組んでいます。2006年の第77回都市対抗野球で、TDK秋田硬式 野球部が初優勝して全国にその名をはせた秋田県にかほ市。世界でも例をみない電子部品の歴史ミュー ジアムである「TDK歴史館」もあり、象潟観光の折にはぜひお立ち寄りください。



TDK象潟工場(秋田県にかほ市象潟町)

#### 株式の状況

会社が発行する株式の総数	480,000,000株
発行済株式の総数	129,590,659株
株主数	26,031名

#### 所有者別株式分布状況 3.9% 金融機関 7.0% 外国人 個人 8.5% -国内法人 47.3% 証券会社 32.8% ■ 自己名義 ■■■ 保振機構名義

#### 従業員数(単独は、就業人員)

連結 66,429名	単独	5,478名
------------	----	--------

### 大株主(上位10名)

株主名	所有株式数 (千株)	出資比率 (%)	株主名	所有株式数 (千株)	出資比率 ( <b>%</b> )
1.日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	16,524	12.81	6. 資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	2,662	2.06
2.日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,859	12.30	7.JPモルガン証券株式会社	2,594	2.01
3.日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	8,496	6.59	8.日本生命保険相互会社	2,140	1.66
4.ナッツ クムコ	7,319	5.67	9. 東京海上日動火災保険株式会社	2,132	1.65
5.パナソニック株式会社	6,250	4.85	10.日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	1,981	1.54
			合計	65,955	51.14

(注記事項) 1.出資比率は自己株式(611.272株)を控除して計算しております。

2. 所有株式数、出資比率とも表示単位未満を四捨五入して表示しております。

#### 取締役、監査役及び執行役員

2009年6月26日現在

2009年3月31日現在

取締役	* 印は社外取締役	監査役	** 印は社外監査役
代表取締役 澤部 肇   代表取締役 上釜 健宏   取締役 江南 清司   取締役 萩原 康弘*	取締役 森 健一* 取締役 荒谷 真一 取締役 梁瀬 行雄*	常勤監査役 三善 昌昭 常勤監査役 原 登	監査役 松本 香** 監査役 大野 亮一** 監査役 中本 攻**

#### 執行役員

会長	澤部肇	常務執行役員	荒谷 真一	執行役員	吉原 信也
社長	上釜 健宏	常務執行役員	鈴木 武夫	執行役員	小林 敦夫
専務執行役員	江南 清司	常務執行役員	藤原 賢一郎	執行役員	米山 淳二
常務執行役員	野村 武史			執行役員	植村 博之
常務執行役員	石垣 高哉			執行役員	Robin Zeng(ロビン・ツェン)
常務執行役員	Raymond Leung(レイモンド・リョング)			執行役員	逢坂 清治
常務執行役員	能美 史朗			執行役員	梶屋 雅隆

#### IR情報

#### 決算情報を含めた株主・投資家情報を当社ホームページに掲載しております。どうぞご覧ください。

TDKホームページ 株主・投資家情報 http://www.tdk.co.ip/ir/

13

#### 株主メモ

上場証券取引所	国内:東京 (証券コード:6762) 海外:ロンドン
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当基準日	毎年3月31日
中間配当基準日	毎年9月30日

株主総会基準日	毎年3月31日 (そのほか臨時に必要があるときには、あらかじめ 公告いたします。)
公告方法	電子公告 (当社のホームページ http://www.tdk.co.jp/ に掲載いたします。)
1単元の株式数	100株

#### ●株券電子化実施後の手続のお申込先について

1.未払配当金の支払のお申込先

これまでどおり、株主名簿管理人(中央三井信託銀行株式会社)にお申込下さい。

- 2.住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等のお申込先
  - ①証券保管振替機構(ほふり)に株券を預けられた株主様:お取引の証券会社等
  - (22008年12月末までにほふりに株券を預けられなかった株主様: 「特別口座」を開設する 右記口座管理機関

(現在は当社が開設した「特別口座 | で一旦管理させて頂いております)

- \*「特別口座 | の株主様がご自身の株式を売却するためには、証券会社等にご本人様名の 口座を開設し、株式を振り替える必要があります。詳しくは当社の右記口座管理機関まで お問合せ下さい。
- \*保有の株券が他人名義の場合は、株主としての権利を失う恐れがあります。 詳しくは当社 の右記口座管理機関までお問合せ下さい。

#### 株主名簿管理人および口座管理機関

東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社

#### 同ご照会先〔郵便物送付先および電話照会先〕

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話:0120-78-2031(フリーダイヤル)

#### 同取次窓口

中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

#### ●配当金のお受取方法について

これまでどおり、「配当金領収証」をゆうちょ銀行等へご持参の上お受取り頂く方法と、ご指定の預金口座への銀行振込によりお受取り頂く方法に 加え、下記方法も可能です。詳しくはお取引の証券会社等へお問合せ下さい。

- 1.保有する全銘柄の配当金を、一括して銀行振込によりお受取り頂く方法(登録配当金受領口座方式)
- 2.保有する全銘柄の配当金を、各証券会社の口座への振込によりお受取り頂く方法(株式数比例配分方式)

#### 【 将来に関する記述についての注意事項 】

この資料には、当社または当社グループ(以下、TDKグループといいます。)に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これら の将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その 他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述 に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記 述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例と して、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

表紙:秋田県にかほ市象潟町九十九島の風景。遠景は鳥海山。

